

Title	遅れてくる了解：われわれの命に再生はあるか実施結果：アンケート集計結果の概要(総合研究所 News：臨床死生学研究講演会)
Author(s)	聖学院大学総合研究所
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.22-No.3, 2013.3：28-29
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=4483
Rights	



聖学院学術情報発信システム：SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

臨床死生学研究講演会
遅れてくる了解

—われわれの命に再生はあるか—
実施結果—アンケート集計結果の概要

イエスの死の体験が、われわれの病や死などの悲嘆体験とどこで、どう繋がるのか。イエスの死とわれわれの命の再生との関わりは？

生涯を新約聖書神学の研究に捧げてこられた先生のお話をじっくりお聞きしましょう。

日 時 2012年11月27日(火)14:00～16:30
(開場13:30)

場 所 聖学院大学ヴェリタス館教授会室

【プログラム】

開会挨拶

阿久戸光晴（聖学院大学 学長）

講師紹介

平山正実（聖学院大学大学院教授、こども心理学科教授）

講演 「遅れてくる了解—われわれの命に再生はあるか—」

大貫 隆（私立自由学園最高学部長、東京大学名誉教授）

質疑応答

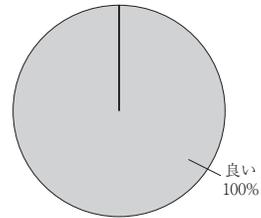
インフォメーション

閉 会

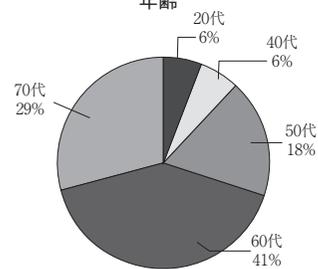
【結果の概要】

- ・参加者は43名。内、回答者は17名。
- ・講演について「良い」が100%と大変高い評価を得た。
- ・自由意見として、「心に響いた」「キリスト教徒ではないが、心に通じた」など。

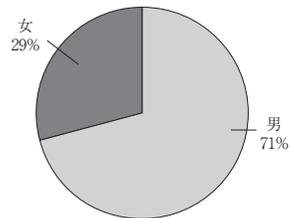
講演について



年齢



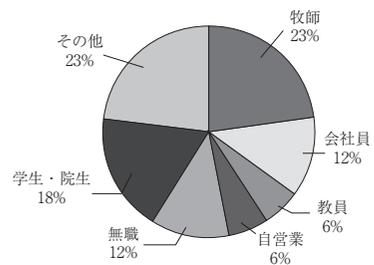
性別



* 回答者の年齢別は、「60代」41%と最も多く、次に「70代」29%となった。

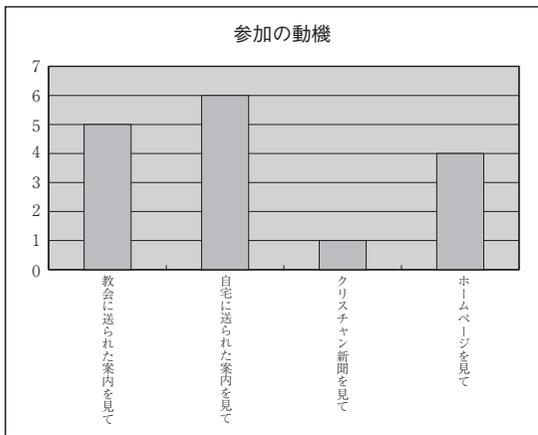
性別は、「男性」71%、「女性」29%となった。

職業



* 職業別では、「牧師」が最も多く23%、次に「学生・院生」が18%だった。

「その他」の内容として、「医師」など。



*参加の動機として、「自宅に送られた案内を見て」が最も多かった。「その他」の内容は、「講師の紹介」など。

今後の講演会についての希望

- ・講演会を1時間位にして、参加者と哲学談議のような形にはいかがでしょうか？
- ・教会と企業はどこが違うのか。「献金と教会の成立」「宗教学者への課税」など。
- ・今後とも、生と死とのテーマの講演会を希望します。
- ・宗教改革500年を前にルター関連の講演会を希望します。
- ・「神の国」もイエス様を本当に信じていない人には理解できないと思う。命の再生はあると思います。今の時代障害のある人、誰でも持っている障害の多いことを覚えます。
- ・阿久戸学長のおはなしを一度お聞きしたいです。



自由意見

- ・今回の大貫先生のご講演はばあさんにとっては理解するのに時間がかかると思いますが、クリスチャンの私にとって全人的今が心に響きました。今日はありがとうございました。
- ・キリスト教徒でないので少し難しかった。でも3.11の震災を例えての話はなんとなく心に通じた。
- ・復活信仰としてのキリスト教を再認識させていただきました。感謝します。
- ・とても興味深い話でした。感謝。
- ・「遅れてくる了解」という、素晴らしいメッセージを知らされて大変感謝でした。
- ・「遅れてくる了解」の意図をはじめとして、イエスと「神の国」、過去の死者そしてこれからの死者が共に天井へと招かれ、宴席が始まるとの解釈は信徒として励みになりうれしい。
- ・この次は何が学べるか楽しみです。
- ・ありがとうございました。
- ・キリストは大震災に対して深い悲しみに優しく深く届く語りうる言語をもっていない。そして「死人たちに未来がある」と信ずることと強く教えていただきました。

